

広報 かわぐち

発行 新潟県川口町長 青柳 弘
編集 川口町役場企画課
(〒949-75 ☎0258(代)89-3111)

国際色豊かなもちつき大会

(農業振興まつり、10月20日)

アメリカ大使館一行15名が来町し、もちつき大会に参加。なれない手つきで“杵”を持つ姿に参集者は大喜び。



おもな内容	農業振興まつり	2	分取造林スタート	6
	功労者表彰	3	講演2題	7
	町議会だより	4	スポーツコーナー	8~9
	まちとむらの交流促進大会	5	お知らせコーナー	10~12

停電

11月26日
午後1時~午後4時
武道窪

戦没者(昭和六年九月十八日以降戦死者)の遺族で、公務扶助料、遺族年金等の支給を受けていない者に、特別弔慰金が支給されます。特別弔慰金は、国債で額面三十万円(十年償還)。この特別弔慰金を受けるには請求書の提出が必要です。昭和六十三年六月十三日までに請求書を出さないとい受給できなくなります。問い合わせ、受付は福祉課または県民生部援護高齢福祉課へ。(☎〇二五二) 八五〇五五一一

特別弔慰金を支給
戦没者等の遺族へ

郷土の自然と歴史の講座

(第4回講座)
11月17日(日) 町北部(上川・木沢・東部方面) バスめぐり
AM9:00~PM4:00
(第5回講座)
11月27日(水) 町史こぼれ話その2
文化会館 PM7:30~PM9:30

▽日時 十一月二十九日(金)
▽受付 午後一時三十分~二時三十分
▽場所 町総合福祉センター会議室
▽内容 小出病院精神科医長による診察及び相談指導
▽具体例
①ノイローゼ気味で眠れない。
②学校や職場を休みがち。
③酒びたりにて乱暴をする。
④年寄りのポケ等でお困りの方、気軽に相談してください。

精神衛生
相談

狩猟 11月15日解禁
銃の取り扱いに注意

狩猟が、十一月十五日から翌年二月十五日まで解禁となります。毎年、この時期にはちょっとした不注意による事故が起っています。銃の取り扱いには充分注意を払って、事故のない狩猟期にしてください。



小千谷市戸屋、冬井地区に十月十八日、クマが出没しました。同地区ではクマ狩りを行っています。同地区では、特に田麦山地区の方々は注意してください。

暖房の恋しい季節!
ガスは正しく使いましょう
11月はガス安全使用強調月間

ゴム管にVVぬ火はないか



- 〔注意点〕
- ◎ ゴム管にひびわれはないか。
 - ◎ 炎はいつもきれいな青色で。
 - ◎ 点火・消火は目で確かめて。
 - ◎ お出掛け、おやすみの時はガス栓をしめる習慣を。

人口	6,580人	昭和60年11月1日現在
男	3,238人	
女	3,342人	
世帯数	1,519戸	

青柳 弘 氏 県知事より功労者表彰



町長
青柳 弘

青柳町長がこのほど、地方自治に対する功労者として県知事表彰を受けます。

表彰式は、菊かおる文化の日（11月3日）県庁講堂において行われます。

青柳町長は、昭和22年、26歳の若さで議会議員初当選以来26年8カ月の長きにわたり勤続。この間議長、社会文教、商工、総務の各委員長を歴任し、地方自治の発展と町勢の進展に大きく貢献。

昭和52年12月衆望を担って町長に就任。今日まで豊富な経験と高邁（こうまい）な識見で適切な決断力、実行力を発揮し、極めて短い期間に町勢を飛躍的に進展させた功績が認められたものです。

運動公園建設を初め、財政の健全化、学校教育施設整備、地域農政の確立、定住基盤総合整備、防災対策、潤いのある町づくり、文化行政の推進など数多くの功績があり、現在も活躍中。

町は、永年にわたり政治・経済・文化・社会その他各分野で自治行政の充実発展に貢献された方々を町政功労者として表彰しています。

今年、喜多村喜平、広井吉夫、覚張定一、覚張誠司の四氏がこのほど決定されました。表彰式は十一月五日、役場議場において行われます。

町の褒章（ほうしょう）条例によると、団体又は個人が次に上げるそれぞれの部門で
①善行者 ②地方自治の振興 ③教育の刷新、文化の向上 ④生活の改善、社会福祉 ⑤産業の振興 ⑥保健衛生、体育の向上 ⑦交通の安全、交通運輸の発達 ⑧消防防災等。

町政功労者を表彰

町議会議員として十年以上勤続。この間、議会運営、社会文教、総務の各委員長を歴任し、地方自治の振興に貢献、現在も活躍中。



相川 [55歳]

広井吉夫氏

町議会議員として十年以上勤続。この間、正副議長、産業建設常任委員長など議会の要職を歴任し、地方自治の振興に貢献、現在も活躍中。



和南津 [73歳]

喜多村喜平氏

町消防団幹部として十五年以上勤続。（消防歴二十八年）この間、副団長、本部分団長を歴任し、消防防災に貢献。



和南津 [53歳]

覚張誠司氏

町議会議員として十年以上勤続。この間、副議長、社会文教、総務の各委員長を歴任し、地方自治の振興に貢献、現在も活躍中。



中山 [52歳]

覚張定一氏



野菜即売コーナー



歌謡ショーと抽せん会場

第15回 農業振興まつり

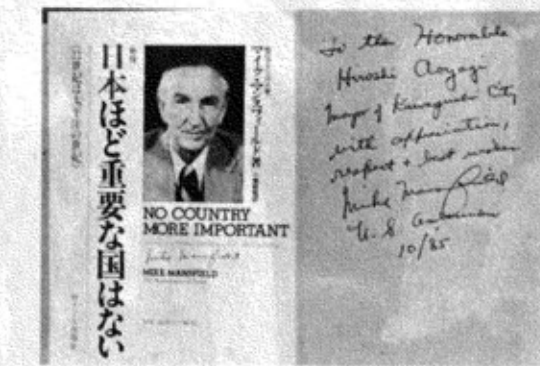
収穫の喜び最高潮



同日 錦鯉品評会 10月20日



▲アメリカ大使館、福利厚生局担当官カレン・ダハーブさんから青柳町長に駐日米大使マンズフィールド氏署名入りの本一冊が贈られた。



▲署名内容
〔心より感謝と尊敬をこめて川口町長青柳弘閣下へ贈呈します。〕
駐日アメリカ大使
マイク・マンズフィールド
1985年10月〕

駐日米大使館員一行も 花そえる

稔りの秋を祝い、一般者から農業を理解してもらおうと第十五回農業振興まつりが、去る十月二十日、福祉センターを中心に行われ、アメリカ大使館員一行十五名も訪れ、国際色豊かなまつりとなりました。

この秋の即売コーナーは朝早くからにぎわいをみせ、新鮮で価格も安いとあって主婦の方々に大好評。ふれあいコーナーのもちつき大会やふるさと料理工夫展、手芸展、ワタアメ・ポン菓子コーナー等は、アメリカ大使館員のとび入り参加で一そう盛り上がりを見せました。農業会館では式典が行われ、水稲、園芸、畜産、養蚕、各部門の表彰が行われました。このあと前日から当町を訪

れているアメリカ大使館の福利厚生局担当官カレン・ダハーブさんが青柳町長にマンズフィールド大使署名入りの本一冊と花束を贈りました。青柳町長も町の特産品をお返しに贈りました。町錦鯉品評会も同日役場前広場で行われ、百六十三点が出品され、訪れた人々の目を楽しませました。福祉センター体育館では、芸能人による歌謡ショーと大当り抽せん会が行われ、福祉センター周辺は終日にぎわいを見せていました。

まちとむらの心のふれあい

越後川口の特産品を販売

10月26・27日 東京 代々木公園

町が参加したイベントは、農林水産物即売コーナー二十番テント。①笹だんご②ちまき③ハヤ④野沢菜などを即売、購入していただいた方々にふるさとの味コシヒカリや柿、ナツメ、ほうづきなどがプレゼントされました。

用意された笹だんご、ちまきは一万二千五百個。次々に訪れる当町出身者との対応に町長はじめ町議会議員、町職員は汗だく。

二十七日の午後三時には用意された即売品はすべて売り切れてしまい、その後訪れた一部の方々に迷惑をおかけしてしまいました。

このイベント参加に先だち、

一年ぶりに再会し、郷土の話に花が咲く。まちとむらの心のふれあいをテーマにまちとむらの交流促進大会が、去る十月二十六、二十七日の二日間、東京代々木公園で行われ、川口町は新潟県代表として参加し、郷土出身者に喜ばれていました。

(写真)

当町は、町出身者への手紙作戦が功を奏したようです。同じ東京都内に住んでいても、郷土出身者同志あまり交流がなく、なつかしい顔がそろると、いくつかのグループ

笹だんご、柿に人気集まる



▲10/26 佐藤農林水産大臣も川口町のテントに訪れました。



参加者からひとこと



川越市 星野静枝さん (西川口 喜勇司さん妹)

昨年も参加させていただきました。東京周辺にいる親戚同志でも、こういうイベントがないと顔を合わせることは少ないんです。郷土の香りする町特産品はみんな購入しました。プレゼント品のナツメは特になつかしく、甘ずっぱい香りはなんともいえない味だわ。毎年続けてほしい。



大田区 原田梅作さん (西川口 巴勇吉さん弟、52歳)

今年初めて参加させていただきました。仕事の関係で川口へはなかなか帰れない。東京にいる郷土出身者との交流もあまりなかったのが今日はなつかしい顔ぶれに逢えてうれしい。笹だんご・ちまきをみやげに郷土の話をお子孫たちに聞かせるつもりだ。このイベントは毎年続けてほしい。

ができてあがり、同窓会や同級会をこれからやるんだと楽しそう。

また、当町はイベントに毎年参加され、都市住民の農業、農村に対する理解を深め、施策の推進に役立った功績が認められ、十月二十六日、代々木会場において、農林水産省構造改善局長から感謝状を受けました。

この大会は、農林水産省が昨年からスタートさせた「都市と農村の交流促進事業」の一環。自然休養村事業を実施

見せていました。

同事業は、農業、農村が果している役割を都市住民に理解してもらい、あわせて農村の発展を図ろうと計画されたものです。

広い代々木公園の一角に、①農林水産物即売コーナー②農林業実演・体験コーナー③参加市町村の紹介④ポスターコンテスト⑤綱引きなどが催され、終日にぎわいを見させていました。

町議会 9月定例会

59年度決算など

18議案、原案通り可決されました

昭和五十九年度決算審議を中心とした昭和六十年第四回町議会九月定例会は、去る九月二十七日招集され、議案十八件、発議案二件すべて原案どおり可決、成立し、十月五日閉会しました。

主な議案等を紹介いたします。

59 決算

健全、積極的 運営を高く評価

昭和五十九年度一般会計、特別会計の決算合計約三十七億円は、去る九月二十七日、総務・社会文教・産業建設の各委員会に付託され、慎重に審議されました。

各委員会の審査結果をおしらせします。

意見書

総務委員会
補助事業等の積極的導入や交付税に見かえりの長期債の選択並びに経常経費の節

減を図ってきた成果により、前年同様に健全運営されており、良好であると認め高く評価します。

社会文教委員会
敬老会慶行事の実施について、現在対象となる基準年齢七十歳を、平均年齢である七十五歳程度に引き上げる方向で今後実施にあたって検討願いたい。

産業建設委員会
国の財政再建政策により、極めて厳しい財政事業ではありましたが、農林並びに道路行政等各種公共事業は、予定どおりしかも効率的に執行されており、極めて良好であると認めます。

補正予算

町道改良など 約一億円を追加

と高く評価されました。

町道改良や田麦山生活改善センター改修、スクールバス購入などを補正した一般会計九月補正予算は、九千九百九万三千円を追加し、総額二十二億七千五百一十七千円となりました。

特別会計においても、水道会計の中山地区排水管布設受託工事や、国民健康保険、ガス事業各会計の通常経費の過不足三千八十一万九千円を追加しました。

条例

▽町家庭奉仕員派遣に伴う費

用徴収に関する条例の一部改正
家庭奉仕員を利用する世帯の階層区分を三種類から五種類にし、利用しやすくした。

▽町老人居室整備資金貸付条例の一部改正
同貸付資金の限度額を百四十六万円に引き上げた。

▽町障害者住宅整備資金貸付条例の一部改正
同貸付資金の限度額を二百二万円に引き上げた。

人事

▽町教育委員会委員の選任
小見昇司氏(田麦山・五十二歳)が、再任の同意を得ました。小見氏は二期目。同委員長職務代理を歴任しています。同委員は五名で構成され、任期は四年。

毎年一人づつ任期がきます。

▽固定資産評価審査委員会委員の選任
山吉喜作氏(川口・五十九歳)が、再任の同意を得ました。山吉氏は三期目。同委員会は異議申し立てがなかった場合評価するもの。同委員は三名で構成され、任期は三年。毎年一人づつ任期がきます。

辺地計画

▽町辺地総合整備計画の変更
学校教育施設の一層充実をめざし、スクールバスを二台追加購入するもの。

財産の購入

▽除雪機械
除雪ドーザ 一台
十二t級車輪式 (S・A) 九三六型

報告

▽長岡地域土地開発公社の経営状況
昭和五十九年度事業と昭和六十年事業計画及び予算を報告。

意見書を採用

▽外国人登録法の改正に関する意見書
▽国保財政の危機打開に関する意見書

した全国五十市町村が参加しました。新潟県からは当町と入広瀬村が参加。

(公社) 分収造林スタート

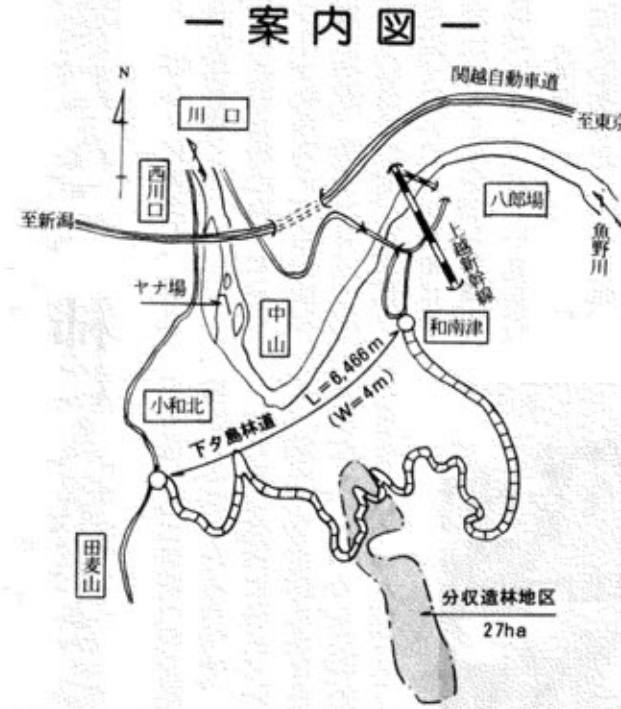
林道下夕島線(6.5km)開通を契機に



▲ 全線開通した林道下夕島線(和南津地内)
現在植林が見直されている。

林道下夕島線 全線開通 6.5km

和南津と田麦山の山沿いを結ぶ林道下夕島線は、昭和五十一年着工以来十年ぶりに全面開通し、地区民から喜ばれています。
全延長は六・五km(幅員四m)、建設に四億円余りが投じられました。
同林道開通により、民有林二百五十ヘクタールの有効利用が可能となり、造林計画が大きく前進します。
また、同林道の景観はすば



らしく、和南津、中山、川口、西川口が一望できます。
春の山菜、秋のきのこ狩りに最適な所となりそうです。

和南津と田麦山間の流通も容易となり、交流が進むものと期待されています。

分収造林 山林を貸すだけで 植林の収益40%が手元に

林道下夕島線全面開通に伴い、国際森林年の今年から分収造林事業がスタートしました。

の割合で分配するもの。
造林に伴う、①地帯②植付③雪起④下刈⑤補植⑥施肥⑦附帯施設すべての費用は林業公社が負担します。だから土地所有者は遊んでいる山林を林業公社に貸すだけで、五十年後には収益の四〇%が手に入ることに、非常に有利なものです。

場所は同林道の中間地点、和南津沢地区。造林計画は、総面積二十七ヘクタールを五ヶ年で植林(スギ)しようというもの。昭和六十年年度はとりあえず三ヘクタールを植林します。

森林は木材を生産するだけでなく、水源をうるおし、生活環境を守るためにも私達の生活にとって欠くことのできない大事な資源です。
地区有林や手入れをしていない個人有林も十ヘクタール以上の団地化をすれば公社造林ができます。
あなたも、山林をもう一度見直してみませんか。
申し込み・問い合わせは建設課へ。

植林作業は川口郷森林組合が、県林業公社の依頼を受け、実施します。一千平方メートル当りスギ苗木を二百五十本植え付け、約五十〜六十年後には、成木約百本が生産される計画となっています。
分収造林(公社造林)とは、地区有林や個人有林を林業公社が借り受け、植林を行い、五十年後に成木の収益を土地所有者四〇%、林業公社六〇

農政こん談会

日本の農業から 世界の情勢を見た農業へ

農家が生き残るには、借地による規模拡大が必要だ。『新潟県農業の展開方向について』と題した農政こん談会が、去る十月十五日町役場において行われ、農業をとりまく環境の厳しさが話合われました。(写真)



講師は県農林水産部農政企画課長小高良彦氏。参加者は町の農業関係リダー、プロ農家など五十名。
①農業をとりまく情勢②新潟県農業の現状と課題③新潟県農業・農政の展開方向について講演されました。

講演 2 題

小高農政企画課長は、「現代農業は、『日本の農業』から『世界の情勢を見た農業』へ大きく変わってきています。農産物価格の低迷に加

え、諸外国からの市場開放圧力が増大し、農家の生活は増々苦しくなりました。
新潟県は耕地面積第三位、水田率は八八%と米中心農業です。米の生産コストをみると高く、特に農機具に占める割合は大きい。水田耕作面積の規模拡大や、農機具の共同利用を進めるべきだ。大局の見地からは『地域農政の時代』自分達で考え、みずからやっ

て行く時代だ。』と話されました。
また、新しい動きとして町も先がけている都市住民のふるさと志向を反映して「ふるさと会員制度」が展開されはじめた。大切に育ててほしいと。
当町からの参加者からは、県への要望として①雪を農業のエネルギーに変える研究をしてほしい。②農産物の市場開放抑制対策は国内のもうかっている企業との話し合いも一考ではないか等の意見が出されました。

高速時代の問題あれこれ

川口はインターがあるから発展する

関越自動車道全線開通が町にどんな影響を与えるかを問う、時局講演会「高速時代の問題あれこれ」が、去る十月九日町役場において行われました。(写真)



講師は、新潟日報代表取締役社長・平山敏雄氏。参加者は町の有力者百十名。
関越自動車道は、人、情報、観光、地域開発などさまざまな分野に大きなインパクトを与えるため、不安、思惑、期

先に開通された東北、中央各高速道の情勢を例に講演されました。
平山社長は、「川口町はインターチェンジを持っているから必ず発展する。まずそこに住んでいる人々が喜んで住んでいるような町づくりをすれば自然に企業が集まる。余力で観光や企業誘致をやり、いい町づくりを官民一体で進めてもらいたい」と話されました。
参加者はうなずいたり、メモを取ったり、真剣な眼差しで聞き入っていました。

町長選挙 12月1日 町議会議員補欠

1. 告示 11月26日(火) 福祉センター

2. 立候補受付 11月26日(火) 福祉センター

3. 投票日 12月1日(日) 福祉センター

4. 開票 即日開票 福祉センター

5. 不在者投票 11月26日(火)~11月30日(土) 役場・選挙事務室

6. 立候補予定者の説明 11月11日(月) 役場・選挙事務室



上川保育所 10/6



田麦山保育所 10/6



西川口保育所 9/29



東部保育所 9/29

プレーする 雨にもめげず

スポーツの秋

ゲートボール愛好家が集まり、熱戦を繰り広げた第九回町長杯争奪高齢者ゲートボール大会は、去る十月十六日運動公園において行われ、牛ヶ島千歳会が二年連続四度目の優勝に輝きました。(写真)

参加者は十六チーム、二百名。各地区の学校開放施設を利用した日頃の練習の成果が披露され、年々技術の向上が見えています。

ひさしぶりの好天に恵まれ、公園内はさわやかな笑顔が一

ゲートボール

牛ヶ島千歳会 2年連続4度目の優勝

日中続き、皆楽しそうにゲ

ソフトボール

—中山が優勝—
地区館対抗ソフトボール大会結果
(10月6日 運動公園)
優勝 中山地区館
準優勝 東部地区館
三位 田麦山地区館

郡中学新人戦

—野球、庭球で優勝—
野球
(10月9・11日 川口町運動公園)
優勝 川口中学校

庭球
(10月9日 堀之内中・広神中)
▽男子団体 優勝 川口中学校
▽女子団体 3位 川口中学校
▽女子個人 2位 角張・山田組

陸上 (10月8日 小出中)
▽800m (2年男子)
2位 井浦 孝之
▽1500m (2年男子)
2位 井浦 孝之
▽3000m (1年男子)
3位 山吉 正浩
▽3000m (2年男子)
3位 小林 祥晴
▽100m (1年女子)
3位 小西 伸枝
▽砲丸投 (2年女子)
3位 山田真由美

ムととりくんでいました。結果は次のとおりです。

優勝 牛ヶ島千歳会
準優勝 川口第三老人クラブ
三位 荒谷老人クラブB

11月の予定

第5回田麦山親善駅伝大会

▽日時 11月10日(日) 午前8時～
▽コース 田麦山小学校を中心に各コース有り。
▽主催 田麦山スポーツ振興会

地区館 運動会

西倉初優勝

西川口地区館

レッツ・ラブ・ニシカワグチを合言葉に第十一回西川口地区館運動会が、去る十月十三日川口小学校で行われ、西倉地区館が初優勝しました。

不安定な天候の中、八チーム、延べ二千人が参加。二人で愛すクリムや大なわとびなどのふれあい種目に汗をにじませる老若男女。(写真)

優勝した西倉地区館は、八年前には最下位。小地区ながら地区内結束して練習をかさ



ね、年々順位が向上し、今年は見事に優勝の栄冠を得たもの。

大形連続優勝

田麦山地区館

野球

—ホープス2度目の優勝—
町野球選手権大会結果
(9月8日～10月27日 町運動公園)

優勝 ホープス
準優勝 川岸町
三位 酒巻製作所
三位 相川ライオンズ

バレーボール

—西川口、泉水が優勝—
地区対抗秋期バレーボール大会
結果(10月27日 川口中)

一般の部
優勝 西川口地区
準優勝 東部地区
三位 田麦山地区

婦人の部
優勝 泉水地区
準優勝 中山地区
三位 西川口地区



続優勝しました。(写真)

新ブランドに四チーム、延べ千人が参加。ハンテン輪送リレーや大人と子供の水汲みリレーなどふれあい種目が和気あいあいのうちに進行。最後に新しい体育館において参加者全員によるフォークダンスや民謡を踊り、楽しくなごやかな一日でした。

統合10周年を祝う

10/19(土) 20 川口中学校

自主・信愛・剛健を校訓とする川口中学校(上村正弘校長・生徒数二百六十九名)が、去る十月十九日「統合十周年記念式典」を行いました。

(写真)

参加者は町、PTA、生徒、教育関係者約四百名。

式典に際し青柳町長は、生徒達に、「教育施設整備五カ年計画は今年で無事終了する。来年からは、教科内容の充実を核とした教育新五カ年計画の実施がスタートする。主体性、創造性と豊かな個性を持った人に成長してほしい」と話されました。

統合中学は、地域の人々が教育に期待と熱意をこめて昭和五十一年四月に開校。当時L1教室など先見性のある教育施設を完備した。以来、プール、学校給食など増々充実され現在に至っています。

統合十周年を記念して、記念講演や中庭造園、備品整備、同窓会名簿、記念誌の発行、

記念文化祭など多彩な催物が同時に行われ、中学校は終日にぎわいを見せていました。



移動成人講座

エアロビクス・レザークラフト・七宝

エアロビクスやレザークラフト、七宝アクセサリーなどの実技講習が、十月に五回行われ、主婦を中心に延べ二百名を超える人々が参加しました。各地区の学校を開放した移動コミュニティスクールは、年々盛んになり、特にエアロビクス、レザークラフトは人気が高まっています。

エアロビクス
昨年十一月から始められたエアロビクス講習会は、今年から東部だけでなく泉水、田表山においても開催したところ多数の参加を見ました。いつまでも美しさを保つには楽しくリズムカルに運動するのが一番。一日わずか二十分爽やかに汗を流すだけで、



▲ エアロビクス

生活全体のリズムが驚くほどヘルシーになるとのこと。
参加者達は講師の関口陽子先生(十日町)と一緒に楽しくとびはねていました。

レザークラフト・七宝
木沢地区では、主婦達が皮工芸に挑戦。講師は佐藤陽一先生(長岡)。小銭入れやペンケースが次々に完成し、手づくりの良さを味わっていました。
また、西川口地区では、七宝アクセサリーに挑戦。女性ならではの器用さで、ベルト、ペンダント、ブローチなど手づくりの品物が次々出来あがっていました。

明るい女性が好き

渡辺裕伸さんは、田表山から西川口の工場へ勤務している好青年。
Q 趣味は何んでしょうか。
A これといってないけど良くテニスをします。
Q 休日は何をしていますか。
A 家でゴロゴロしています。
Q 理想の異性像は(具体的に)
A 話し上手な明るい女性。

ヤング紹介③



田表山 渡辺裕伸さん

Q 若さの証明とは何ですか。
A なんにでも熱中できること。
Q 今の仕事の満足度は。
A 80%。
Q 町への要望は何かありますか。
A もっと若者が集まってくるような町にしてほしい。
Q 好きな「ことば」は。
A 信頼
Q 一番嫌いなのは(何でも結構です)
A 意地張りな人。
Q 将来の夢を一言どうぞ。
A 人にうらやましがられるような明るい家庭。
Q 川口町が都会より良いと思うところはなんですか。
A 自然に囲まれ、のんびりできること。
Q 最後に自己アピールを!
A 暇な女性はいつでも私にお電話を!

北魚沼農業者のつどい

健康で快適なくらしへ

10月18日 町福祉センター

健康で快適なくらしの創造をテーマに北魚沼農業者のつどいが、去る十月十八日、町福祉センターにおいて行われました。参加者は郡内の生活改善グループ員と町内農業者五十名。

このつどいは、日頃実践している農業改良と生活改善の知識、技術を交換し、生産と生活の調和を図り、健全な農家生活を推進することを目的

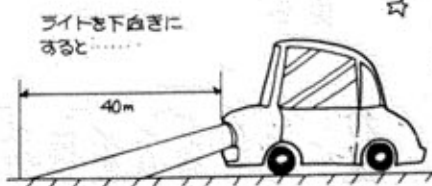


として開かれたもの。内容は、同グループ員による寸劇三題や講演「昔話と民族」。

当町からは荒屋と小高グループが寸劇「疲れをためない働き方の工夫」を熱演。(写真) 転作用作物「枝豆」の収穫を演じ、県補助で導入した枝豆もぎ取り機も登場、演出効果に工夫をこらしていました。寸劇発表のあと、この発表に対して質問や提言など熱心に討議が行われました。

夕暮れ時の交通事故防止運動

10月21日～11月20日



- ライトは早めに点灯
- 明るい色の服装に心がけ、夜光反射材を利用
- 夜間はスピードを控えめに
- 飲酒運転は絶対にやめましょう

“夕暮れは 心で注意 目で確認”

中越から下越の数を含むものである。

地震口説 (一)

ここに不思議な越後の地震、言うも語るも身の毛がよだつ。年は文政十一年、頃は霜月中央の二日、朝の五ツとおぼしき頃に、どつとよってくる地震の騒ぎ、たばこ一ぶく落さぬ内に、上は長岡新潟かけて、中に三条や今町見附、潰る跡から一時の煙り、それにについで与板や燕、在の村々その数しれず、潰れ家数は幾千万ぞ、さてや梁、柱や桁に、背骨肩腰頭をうたれ、目鼻口から血を吐きながら、逃れ出で

んと狂気の如く……。これは安政二年に真島徳太郎(真島啓一家文書)が書き記した「地震口説」の一節である。この記録は十一月十日のことである。現在の十二月十八日にあたる。マグニチュード六・九と推定されており、死者は一四四三人、家屋全壊九八〇八戸、半壊七二七六戸、焼失二〇四戸であったという。言わゆる三条地震と言われているものである。当然三条ばかりでなく、長岡、見附など

「地震口説」によれば七十余日余震が続いており、「雪はちらつく、寒さは寒し、外にいられず涙の中に、一家親類皆集りて、大工いらすの堀立小屋につづれかむりてしのごとすれど、雪は吹き込み目もあてられず……」と言う状況であった。さてこの「地震口説」はかなり真実性があって貴重なものだが、残念ながら川口のとが書かれていない。小千谷では、ほとんどの家で被害があたり、七十二の土蔵の壁が落ちたとされる。

(つづく)

最低賃金

日額 **3,367**円

10月4日から適用